

健康 わんだーらんど Wonder Land



こんにちは健康ワンダーランドです。今回は“がん検診の動向”について取りあげてみました。

「がん検診の動向」について

健康増進センター センター長 中尾 治彦



今回は、がん検診について、その考え方、種類と内容、受診する際の注意点を中心に、ご説明します。

●がん検診について

がん検診には、右図に示すとおり、対策型検診と任意型検診の2種類があります。対策型検診(いわゆる集団検診)は、ある集団の長期生存率を上げることがを優先する検診であり、任意型検診(いわゆる個人ドック)は、受診者個人の希望にあわせた検診になります。言い換えますと、対策型検診は、全体の生存率を上げるために、なるべく負担の少ない検査法で、多くの人数を検査するものであり、任意型検診は、ある受診者が罹患するリスクの高いがんに対して、より発見精度の高い検査を行い、できるだけ早い時期に見つけることにより、より侵襲の少ない治療で済むようにするものです。

ここで、胃がん検診を例に挙げてみましょう。集団検診の推奨検査は、胃X線検査です。短時間に多くの受診者を処理でき、検査の苦痛も少ないです。毎年受診するのであれば、胃の内視鏡検査と生命予後に関する長期成績であまり差はありません。任意型検診の推奨検査は、胃内視鏡です。検査を苦痛に感じることもありますが、毎年受ければ、ほぼ90%の方で胃がんを内視鏡治療可能な時期に発見することができます。

右の表に、集団検診と個人ドックにおける部位別の推奨検査方法をまとめています。当院個人ドックでは、肺や大腸について、受診者ご自身の危険性を鑑み、肺がんの高危険者には肺CTを、また大腸がん高危険者には、大腸内視鏡検査の受診勧奨を行っております。また、集団検診では、肝臓、膵臓、甲状腺について、実施検査はありませんが、個人ドックにおいては、各指定の検査で設定しています。

対策型検診(いわゆる集団検診)

【目的】

ある集団の長期生存率を上げることがを優先する検診。

個人的な事情(例えば血族者に肺がんが多い、自分は喫煙者であるなど)は、基本的に関係なく同じ内容で検診は行われる。

生存率の上昇が目的なので、発見されたがんに対する治療法の受容性については、考慮しない。例えば早期胃がんに対して、内視鏡治療でも外科手術でも同じ長期成績であれば同等に扱う。

任意型検診(いわゆる個人ドック)

【目的】

受診者個人の希望にあわせた検診。

個人の背景にあわせて行うので、皆同じ検査を行うわけではない。喫煙者で肺がんの危険性が高ければ、(放射線被ばく)のリスクはあってもがん検出能力の高いCT検査を行ったり、家族に大腸がんが多ければ(検査のリスクはあってもがん検出能力の高い)大腸内視鏡検査を行う。

また生存率に大きな差はなくても、できるだけ体に負担の少ない治療法で行えるうちに、がんを発見することも目的化できる。

	集団検診	個人ドック
胃	胃X線検査	胃内視鏡検査
肺	胸部X線写真	胸部X線写真 高危険者は、肺CT
大腸	便潜血反応	便潜血検査に加えて 危険性に応じて1-5年間隔での 大腸内視鏡検査
肝臓	なし	超音波検査(肥満者や脂肪肝を除く)
膵臓	なし	高危険者は、MRI やせていれば超音波検査も有効
甲状腺	なし	超音波検査

集団検診と個人ドックの推奨検査項目の比較

●がんの罹患率と死亡率

右表に、2012年度の男女別のがん罹患率と死亡率(部位別)を示しています。がんの罹患率と死亡率は、必ずしも同じではありません。罹患率が高くても、早期発見しやすいがんは、死亡率は低くなり、逆に罹患率は高くなっても、進行の早いがんや発見しにくいがんは死亡率は高くなります。

	罹患率	死亡率
1位	胃	肺
2位	大腸	胃
3位	肺	大腸
4位	前立腺	肝臓
5位	肝臓	膵臓
6位	食道	食道

2012年度 男性のがん罹患率と死亡率(高い順)

●検診が有効ながん? 有効ではないがん?

検診が有効ながんの条件として、1)がんの発育速度があまり早くない(発見可能な段階から治療困難になるまでの期間が長い、目安として1年間以上)、2)罹患率が高い、3)検査法の精度が高く、できればコストが高くない。また、検査の危険性が低い、が挙げられます。逆に、検診が有効でないがんの条件として1)がんの発育速度が極端に早い(発見可能な段階から治療困難になるまでの期間が極端に短い。1年未満だと厳しい)、2)罹患率が極端に低い、3)検査法の精度が低く、コストが高い。また検査の危険性が高い、が挙げられます。以上の事から、右図のとおり、検診が有効ながんとして、大腸がん、胃がん、乳がん、子宮がん、肺がん、前立腺がんが、逆に効果的でないがんとして膵臓と脳腫瘍が言われています。

	罹患率	死亡率
1位	乳房	大腸
2位	大腸	乳房
3位	子宮	肺
4位	胃	胃
5位	肺	膵臓
6位	甲状腺	肝臓

2012年度 女性のがん罹患率と死亡率(高い順)

検診が有効ながん

- ① 大腸がん・・・検査精度が高く、基本的に発育速度も早くない
- ② 胃がん・・・検査精度が高く、ほとんどは発育速度も早くない
- ③ 乳がん・・・検査精度が高く、ほとんどは発育速度も早くない
- ④ 子宮がん・・・検査精度が高く、ほとんどは発育速度も早くない
- ⑤ 肺がん・・・CTを使えば検査精度が高く、半数以上は発育速度も比較的緩やか
- ⑥ 前立腺がん・・・検査精度に問題があるが、発育速度が遅い

検診が効果的でないがん

- ① 膵臓がん・・・検査精度が低く、一部を除き発育速度が極端に早い
- ② 脳腫瘍・・・罹患率が極端に低い

●各がん検診での注意点 (胃がん、大腸がん、肺がん)

【胃がん検診についての注意点】

①原因の90%はピロリ菌感染のため、予防効果が高い。一度はピロリ菌感染検査を受け、できるだけ早く除菌してください。②検査はできるだけ内視鏡検査を受けてください。胃がんや食道がんの大半は、毎年内視鏡を受けることにより内視鏡治療可能な段階で発見できます。③内視鏡では5mm以上の大きさで、X線検査では10-20mm以上の大きさ(部位により異なる)で病変をほぼ検出可能です。

【大腸がん検診の注意点】

①基本は便潜血検査法になります。大腸がんがあれば70%の確率で陽性になります。言い換えれば30%で見落としになりますので、必ず2検体を提出してください。2検体だと見落とし率は10%程度で済みます。②大腸の場合は遺伝素因が大きいので、血族に複数の大腸がんがいれば、一度は内視鏡検査を受けてください。腫瘍性のポリープがあれば組織検査を受け、そのグレードにより内視鏡検査の間隔が決まりますので主治医から説明を受けてください。③どうしても内視鏡検査が苦手な方は大腸CT検査もあります。

【肺がん検診の注意点】

①喫煙者(過去も含めて)の中で、喫煙指数(平均1日喫煙本数×喫煙年数)が400以上で50歳以上の方は肺CTが有用とされています。放射線被ばくの害よりも肺がんの危険性が高いとされる報告がみられます。検診間隔は1~2年が無難とされます。喫煙指数が800以上であれば毎年受けてください。禁煙後10年以上経過すれば、危険性はかなり低下しますので、検診間隔は開けても構いません。②非喫煙者の場合は、遺伝素因や塵肺・石綿肺などの職業病がなければ、必ずしもCTの必要性は高いわけではありません。③CTでは5mm以上の病変から検出可能です。X線では場所によっては10mmでも描出困難な場合もあります。



◆ 人間ドック受診者の満足度調査結果について

健康増進センターでは、人間ドックの利用者様に対し、年1回の満足度調査を行っております。日頃より当センターを利用されている受診者の視点でご評価をいただき、受診者の声をサービスの向上に繋げることを目的としています。本年度は、人間ドックを受診いただきました方を対象に、受診後に質問紙をお送りし、予約から受診当日の内容、更に結果票の見やすさまで、満足度調査を実施いたしました。今回は、初めて実施しました結果票に対する満足度評価結果を中心にご報告いたします。

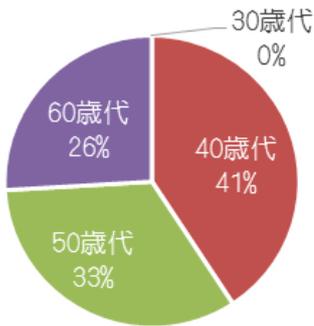
皆さまからいただきましたご意見・ご要望を更に検討し、より良い健診施設づくりに活かして参ります。

〈健康増進センター受診者満足検討チーム〉

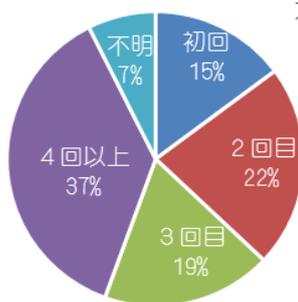
【実施期間と対象】

調査期間：平成28年6月1日～7月15日 アンケート送付対象者数：人間ドック受診者 100名
アンケート回収受診者 27名（男性13名，女性14名，回収率：27.0%）

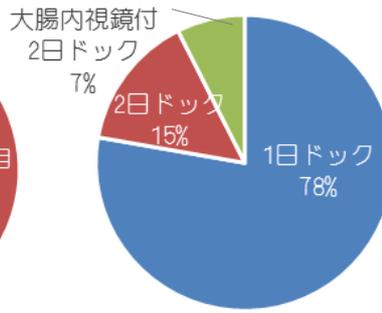
受診者年齢層



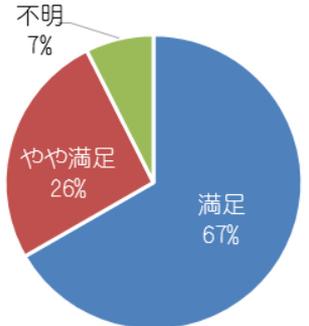
利用回数



受診コース

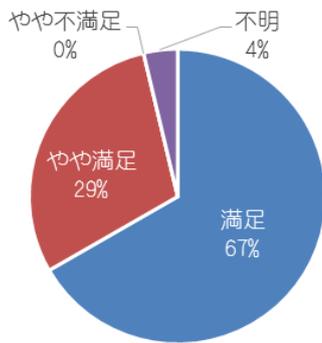


総合的な満足度

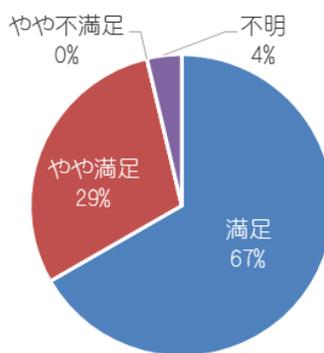


《人間ドックの結果票および結果票到着日数に関する評価結果》

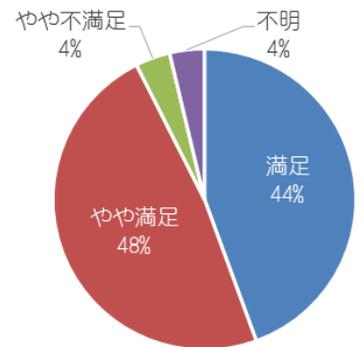
結果票の読みやすさ



保健指導内容の読みやすさ



結果票到着までの日数



- 総合的な満足度は、18名(67%)の方で「満足」としており、「やや満足」が7名(26%)、「やや不満足」が0名(0%)であり、未記入が2名(7%)でした。今回、受診後に郵送による質問紙の回収を行ったため、従来の調査に比べ対象者数が減少しており、今後も引き続き注視して参ります。
- 図表では、明記していませんが、他施設に比べて充実している点として、「スタッフの接遇」が最も多く、次いで「診察・結果説明」、「施設の設備」という結果でした。
- 結果票に対する満足度評価について、結果票の読みやすさ、保健指導内容の読みやすさは、「満足」の方が18名(67%)で、「やや満足」が8名(29%)、「やや不満足」が0名(0%)であり、未記入が1名(4%)でした。結果票到着までの日数については、「満足」の方(44%)より「やや満足」の方(48%)が多く、やや不満足と回答した方がいるため、今後更に改善が求められます。

佐世保中央病院 健康増進センター 基本理念と基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報への守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

健康増進センター 診察担当医

	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医 : 中尾・寺園・本多・永尾 非常勤医 : 北村・唐田				
午後診察	※ 毎日3~4名の医師が担当いたします				
乳がん検診	佐々木	大坪	佐々木	碓	大石
婦人科検診	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくか、お電話およびホームページからのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日（夏季） 12月30日～1月3日（年末年始）

【健康増進センター直通】

電話番号 (0956)33-5335

FAX番号 (0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujujikai.or.jp

右のQRコードをご登録してアクセスいただければ
当施設ホームページから人間ドックのご予約ができます。



編集後記

早いもので、今年も残すところ1ヶ月となり、この健康ワンダーランドも本年最後の発行となりました。一年間ご愛読いただき有り難うございました。さて、本号ではがん検診の動向について、担当医師から詳しい情報提供を行わせていただきました。ご参考いただければ幸いです。次回発行日は、来年1月を予定しています。どうぞご期待ください。